

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270200983		
法人名	社会福祉法人 桜友会		
事業所名	グループホーム さくらの里		
所在地	青森県弘前市大字藤代字広田131-1		
自己評価作成日	平成25年5月11日	評価結果市町村受理日	平成25年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成25年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 暮らしの中に笑顔を忘れないように心がけています。また、入居者の話を傾聴して、一人ひとりの心と向き合って、寄り添う介護を心がけています。 2. 地域との交流がなくならないよう、地域の公民館に出かける機会を設けています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「暮らしの中に笑顔を忘れず、地域の皆様が気軽に足を運べるような施設づくりを目指す」というホーム独自の理念を掲げており、全職員で理念を共有しながら、日々、笑顔で利用者と接することを心がけている。 また、利用者との会話を多く持ち、日々の関わりの中から思いや希望を把握するように努め、その人らしい暮らしを支援できるような介護計画を作成している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールの目の付く場所に理念を掲げ、職員が実践できるように努力している。	ホーム独自の理念を作成しており、交流を図りながら、地域に密着した関係づくりを心がけている。また、スタッフ会議等で、理念を実践できているか確認している他、共有スペースに理念を掲示し、全職員で共有できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月第3火曜日に、入居者2名が公民館の書道教室に参加している。今後は入居者が参加できる講座を増やしていきたい。	地域との関わりを持てるように取り組んでおり、月1回、公民館へ書道教室に通っている利用者がいる他、老人クラブの方々が時々ホームを訪問し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報誌等でホームでの取り組みを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況の報告を行っている。今後は出席者からの意見をサービスの向上に活かせるように努めていきたい。	市役所職員、地域包括支援センター職員、民生委員、町内会長等がメンバーとなり、運営推進会議を開催している。会議では、利用者の状況や活動内容を報告したり、今後の活動内容について情報交換を行い、地域との関わりを深めるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のみの交流であるため、連携が密に取れている状況ではない。今後は市町村の担当者と連絡を図っていきたい。	運営推進会議に市役所職員が年1回、地域包括支援センター職員は毎回参加している。また、必要に応じて市役所に問い合わせたり、相談をしながら、課題解決に向けて取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の精神面や安全面を考慮して、玄関の施錠は家族の同意を得て、継続している。玄関を一定時間開放できるようにしていきたい。	身体拘束を行わない方針であるが、現在は安全面を考慮して玄関に施錠しており、家族に説明し、書面にて同意を得ている。また、共有スペースに必ず職員が居るようにし、利用者の状態を把握しながら、外出傾向を察知できるよう、職員間での見守りを重視している。	運営推進会議等で意見交換をしながら、万が一の無断外出時に地域の協力を得られるような働きかけに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成24年度は行っているが、今年度はまだ行っていないものの、スタッフ会議で虐待について話し合う場を設けるようにしていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会を設けていないが、今後はスタッフ会議で権利擁護を議題として、勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外にも随時質問を受け付け、説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族から意見・要望を聞き、反映できるように努力している。	日々の関わりを通じて、利用者の意見を把握するように努めており、利用者の行動を観察し、いつもと様子が違う場合等はその要因を探るように努めている。重要事項説明書にホーム内外の苦情相談窓口を明示している他、玄関にも掲示し、外部に意見を出せることを周知している。また、面会時には家族からの聞き取りを大切にし、意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で職員の意見を聞いている。	新規利用者の受け入れ時には、職員から意見を出してもらうようにしている。また、職員の異動等に伴う利用者への影響に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境となるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が外部研修に参加している。今後は介護職員も積極的に外部研修に参加できるようにしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が外部研修に参加し、同業者と交流している。今後は介護職員も外部研修に参加して、同業者と交流できる機会を作りたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の際に聞き取りを行っている他、入居者の担当職員を決め、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接の際にも聞き取りを行っている他、入居後も面会時に相談や要望を傾聴し、家族との信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を聞くと共に、現状を伝え、必要なサービスを利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	草取りや園芸活動を通して、入居者から教えていただくことも数多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況を、家族に電話で連絡したり、場合によっては面会に来ていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と共に買い物や食事に出かけたり、知人からの電話を取り次いで、会話を楽しんでもらっている。	入居時に情報収集をしている他、日常会話の中からも、利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等を把握するように努めている。また、利用者の希望に応じて、交流を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がトラブルにならないように、見守り・声がけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去となった入居者家族から、退院見込みとなった場合に相談があり、本人の状態に応じた施設について説明を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が普段の生活の中で希望や意向を聞き出して、サービス計画を作成するように努めている。	日々の関わりの中で、利用者の思いや希望、意向を聞き取るようにしており、全職員で利用者の視点に立ち、把握できるように努めている。また、本人からの情報が不十分な場合は、家族等からも情報を収集している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の面談を通じて、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が情報を共有し、心身状態を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者がサービス計画を作成し、本人や職員の意見を聞いて、サービス計画の見直しを行っている。	日頃から、利用者との会話を持って意見を聞き、利用者が目標を達成できるような、個別具体的な介護計画となっている。また、利用者の身体状況等に変化がある場合には随時見直しを行い、必要に応じて、家族や関係者からも意見を聞きながら、現状に即した介護計画となるように努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送りノートで情報を共有し、日々のケアに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付添いや買い物の代行、理髪等には対応ができていますが、それ以外は取り組めていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館の書道教室に参加することで、地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居前に診察を受けている病院に継続して通院しているが、希望がある場合は、協力病院に変更する場合もある。	受診状況を個別に記録し、把握している他、入居前から通院している医療機関を継続したり、希望に応じて対応する等、個々に合わせた支援に取り組んでいる。また、受診結果は家族へ定期的に報告している他、変化がある場合には随時報告する体制となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はない。また、訪問看護ステーションとの契約はしていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合はソーシャルワーカーと情報交換したり、様子を伺いに行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	レベル低下が見られた頃より、他施設への移行の検討、話し合いを行っている。	重度化や終末期の対応は行っていない旨、ホームの方針を家族等に説明し、納得を得ている。また、利用者の急変時には、医療機関や家族と今後の対応について話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。スタッフ会議で応急手当等の訓練を行うように努めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。地域との協力体制を築けるように努めていく。	6月に日中を想定した避難訓練を実施している他、11月には夜間を想定した訓練を実施する予定であり、現在、民生委員を通じて、地域住民の参加・協力を得られるように働きかけている。また、設備点検を行っている他、災害時に備えて飲料水等を準備している。	食料や飲料水等は1日分程度の備蓄のため、量を増やしたり、その他にも、寒さをしのげるような物品等を準備することに期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として、丁寧な言葉遣いを大切にしている。	利用者と笑顔で過ごすように心がけており、名前に「さん」付けで呼びかけ、相手を尊重した声がけをするように努めている。また、業務に追われ、利用者に関わる時間が不足していることを認識しており、改善できるように現在検討中である他、個人情報の取り扱いについても、今後、理解を深めることができるように取り組む意向である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の話を傾聴し、自己表現ができるように声がけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先してしまうことがある。今後は入居者一人ひとりの希望に沿うよう、努めていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服にならないように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嗜好を取り入れるようにしているが、入居者の身体レベルが低下し、食事の準備を手伝ったり、後片付けを手伝ったりすることができない入居者が多くなってきている。	利用者の希望に可能な限り対応できるよう、献立の作成を行っている。職員は利用者と一緒に食事を摂っており、さりげなくサポートしながら声がけし、楽しい食事時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食記録しているが、水分量はチェックしていない。入居者の状態に合わせ、きざみ食にして食べやすくしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが自立していない入居者には、声がけや介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	落ち着きがなくなってきた際にトイレ誘導したり、呼び鈴を押して排泄を教えてもらうことで、失禁の軽減に努めている。	排泄パターンを記録しており、時間で誘導したり、利用者の行動を観察しながら事前に誘導し、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、失禁時等は他の利用者に気づかれないように、羞恥心に配慮している。	オムツ使用の継続に関する事等、随時話し合いを行うことに期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促すように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	「一番風呂に入りたい。」や「ゆっくりと入りたい。」等の入居者の希望に沿うようにしている。	利用者の希望を聞きながら、1日おきの入浴を実施している。また、入浴を拒否する場合には、声がけを工夫したり、別の職員が対応している他、毎日入浴が可能な体制を整えているので、別の日に対応する等、無理に勧めないようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで休息できるように支援している。起きたままの状態や寝たきりにならないように、気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の服薬状況をファイルし、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼりたたみや清拭たたみ等の役割をお願いしている。今後は塗り絵や折り紙等の活動も再開し、意欲低下の防止に努めていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家に帰りたい等の希望が聞かれた時は、家族と連絡を取り、対応を依頼している。	年間行事の他、利用者の気分転換につながるように希望も聞き入れながら、外出支援に取り組んでいる。また、体調が悪い時は安静にしたり、日程を変更する等して、利用者の状態に合わせた支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人にお金を所持させていないが、ホームで預かっていることを伝え、安心してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望で、本人自ら電話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るように、その都度飾り付けを行っている。	季節毎に共有スペースに飾り付けを行っている他、大きな窓から十分な日差しが差し込み、温度や湿度も1日2回記録し、適切な空間となるように努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先や廊下に椅子を置いて、入居者同士で話ができるようにしている。また、一人になりたい時は、居室で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたソファを持って来ていただいたり、テレビやラジオを持って来てもらい、居心地の良い生活ができるように努めている。	馴染みの物を持ってきていただくように働きかけており、一人ひとりの意向やスタイルに合わせた居室づくりを支援している。また、持ち込みが少ない場合は、利用者と相談の上、誕生日に撮影した写真を飾ったりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室に「湯」の暖簾をかけて、わかりやすくしている。入居者の居室の前に名前を貼って、一人でも居室に戻れるように支援している。		